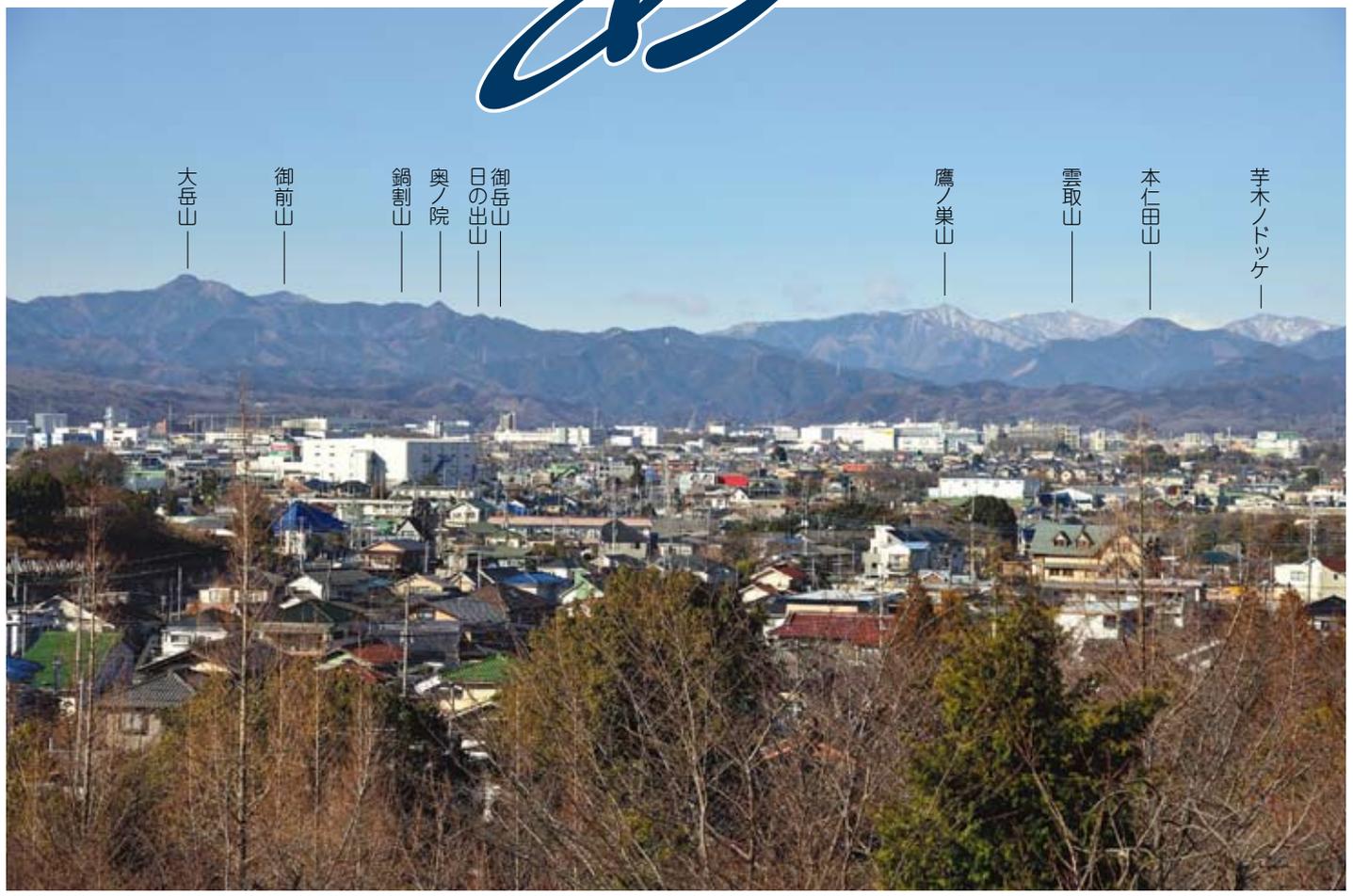


## スポット

- ・ 新年挨拶
- ・ 新年の抱負
- ・ 研修報告
- ・ さくら近況報告 新人紹介
- ・ 安全運転
- ・ 新人紹介

# あかつき



奥多摩の山並み（瑞穂町より）

第66号 2014年1月1日発行  
 発行／編集 社会福祉法人 あかつきコロニー  
 〒208-0023 東京都武蔵村山市伊奈平 1-64-1  
 ☎ 042-560-7840  
<http://akatuki.or.jp> Email:soumu@akatuki.or.jp

# 新年挨拶



理事長  
鈴木賢一



皆様あけましておめでとうございます。私が理事長になって三回目のお正月になります。これまで、私の履歴書について三度書いてきましたが、今回を最後にしたいと思います。私の父、あかつきコロニーの二代目理事長、鈴木善四郎が亡くなったのが昭和五十年八月八日、享年五十九才でした。病名はアルコール性肝硬変でした。ビールが非常に好きで、父は北海道出身でしたので、北海道出身の横綱、千代ノ山と吉葉山と非常に親しかったのです。特に吉葉山の宮城野部屋では後援会長までしておりました。今の横綱白鳳は宮城野部屋の所属であります。その当時の旧宮城野部屋は両国国技館のそばにあり、土俵もそのまま残っており、全く昔のまま、現

在ちゃんこ鍋の店をやっているに繁盛しています。私は父が亡くなると知らされてしまったので、(有)鈴木工業に入社しました。父が長く入院しておりましたので会社はかなりひどい状態でした。何をやっていたかと説明しますと、工場が埼玉県の三郷市にあり、そこではサッポロビールの瓶ビールのキャップ、別名王冠と呼んでいる栓を製造してました。なにしろ現在家庭では瓶ビールを飲む人はほとんどいなくなりましたが、その当時に缶ビールが非常に流行しはじめまして、年々王冠の製造個数が減少してまいりました。現在ではリストラという言葉が一般的になりましたが、当時、男性が三人、女子工員が八人おりました。全員集めて事情を説明し、

半分位やめて欲しいと話しました。御主人と相談した結果、全員が退職金が欲しいという事で、全員やめると申出がありました。私は半分位は残って欲しかったのですが、全員に退職金を支払い、新たに四人を再雇用致しました。今から約三十五年位前です。私の心の中ではもう王冠をやめようと思いましたが、今までは王冠しか作っていませんでしたが、色々な仕事を入れました。建築関係の部品が多くなり、そして数年が過ち、王冠の不良品が発生しました。それを機会に全面的に王冠をやめました。それと前後してサッポロビールの人から大和製缶を紹介してもらいました。この仕事の内容は、缶の自動販売機用のダミー缶の製造でした。今まではサッポロビールしかやっていませんでしたが、大和製缶はキリンビール、カゴメ、カルピス、アサヒもやっておりました。次第にダミー缶の製造も増えてきました所、昭和六十年頃にアサヒビールがスーパーオートを発売したところ大ヒットしました。そしてサッポロもキリンも各社色んなドライという名のビールを発売しました。その当時は

各社一種類の銘柄しか出していませんでした。スーパーオートが発売以降、各社も色々な種類のビール、季節のビール、地方のビール等、その度にダミー缶を作ったので大変いそがしくなりました。平成元年から十年にかけてがピークでした。それから年々減少していきました。理由はアルコール免許の規制の撤廃であります。それまでは酒屋さんの店前には必ずビールの自販機がありましたが、アルコールの免許がなくなりましたので、現在日本では酒屋さんがなくなりました。現在ダミー缶の生産は御中元、御歳暮の時期にデパートに並んでる進物コーナーに置いてあるだけです。その他の時期は何をやっているかというと消防訓練の為に使うダミー人形を製造しております。二十年前前に東京消防庁よりダミー人形の依頼があり、私と東京消防庁の人と一緒に研究して完成させた物であります。その後一年に一回約百体前後東京消防庁だけに納入していましたが、東北大地震以降、全国の消防署から注文が来て、今では毎月生産をつけてくれと依頼があり

# 新年の抱負

## 施設長より



常務理事  
高橋 毅

明けましておめでとうございます。本年も皆様のご指導、ご協力のもと障害者の就労支援、自立支援に力を注いでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

この間利用者及び職員、近隣の方々にご迷惑をおかけいたしますがご協力をお願いいたします。

この様な流れの中、私たち障害者福祉施設の意識も変えていくことが必要です。障害者の一般就労の支援を進めていく必要性、地域社会で暮らしていくためには働く場の提供等、さらには働く職員のプロフェッショナル意識を持つことも大切です。当法人の理念である「共に働く、共に生きる、共に創る」の motto のもと、地域における総合的な障害者の就労支援の向上を目指していききたいと思います。

あかつきコロニーも今年で46年目を迎えることとなります。私自身も4月で52歳になります。私も27年目に突入します。私の人生は半分以上あかつきコロニーにお世話になっており、月日の経つ速さに驚きを感じます。

昨年障害者福祉の動向は大きな動きが続きました。4月には障害者自立支援法が障害者総合支援法へと名称が変わり、難病疾患も一部制度の対象となるなど制度の改正が行われました。また障害者の法定雇用率が1.8%から2%に引き上げられ、11月に厚労省から発表された障害者雇用状況の

集計結果では2%はクリアされませんでした。実雇用率1.76%と前年比で0.07ポイント上昇の結果が出ています。そして6月には障害者差別解消法(平成28年4月施行)と精神障害者の雇用義務化(平成30年4月施行)の法案が成立。平成23年の障害者基本法の改正や一昨年の障害者虐待防止法の制定と関連して次々に国連障害者権利条約の批准に向けた法整備が整えられ、12月には国連障害者権利条約の批准が国会で承認されました。課題はまだ多く残っていますが、これらの制度の流れは障害を持つ人のみならず、日本の社会全体にかかわる大きな成果となるでしょう。



就労継続支援A型  
あかつき作業所  
施設長 永井 眞

ましたので、コーナーと名付けました。何かというと、昔フォークソングで、「走れ走れコーナー」という歌があったので、何んとか売れて欲しいという願いをこめて名付けました。二十年かかりました。身長一メートル六〇センチで、体重が三十六キロです。そもそもはじめは郵政省関係に郵便袋を生産してましたが、その残りの生地が非常に頑丈で、人形に非常に適していたのです。私の鈴木工業を継承してから約四十年になります。運が良いのか、必ず何かがなくなる、新しい物が必ず生まれてくる。最初王冠しか作っていなかった工場がダミー人形を生産しています。四十年前にあった王冠の大手二社は二十年前に倒産しました。あかつきコロニーにおいても、これからなくなる仕事もあると思いますが、必ず新しい物が生まれると信じています。私はそれが革製品の製造だと思っております。また時間がかかっていますが、必ずや、いつか日の目を見ると希望しています。

し、12月には国連障害者権利条約も批准することが決定しております。やっと批准したとの印象がありますが、こうやって法整備がされていくことは大きい意味においては前進といえると思います。我々就労関係施設においても、事業、訓練、虐待、差別の微妙な関係の中におり、つまりこれは仕事なのか訓練と捉えるべきか、事あるごとに自問自答する機会が増える微妙な状態の中で十分な支援がどこまでできるか職員は常に考える機会がおおくなりました。今年もそういう意味において悩みながら考えながら支援をしていくことが必要と感じる年になることはまちがいないと思います。

あかつき作業所における福祉事業活動は、昨年11月に参加させていただいたゼンコロのA型事業のありかた研修会でもっておりましたようにA型事業は特に法的な矛盾を抱えており将来的には何らかの形で整理されていくことが予測されます。我々はそういった部分において危機感もち民間企業

におけるA型と社会福祉法人が運営するA型との差別化をはかる必要があり、どういう方向でどう実行していくのか大きな課題を解決していくかなければなりません。日本における障害者関係の法整備にともない就労における福祉事業も大きな変換をしていく予感がしています。また、就労支援事業活動においては、社会が前述のような状態にあると用紙関係の値上げや消耗品の値上げは必然となつてきており印刷事業の収支に大きな影響があります。また、消費税の増税もダブルパンチで影響がでることが予測されます。ますます厳しい環境と思われれますが、昨年25年4月より障害者優先調達推進法が施行され、少しずつ効果が出ている部分もあり、期待したいところであります。また、給食事業は、4年目を迎えて体的には不安な要素を抱えながらも作業的には比較的安定した状態にはありますが、毎年のように予定食数確保にとまなう当日欠食対応や、調理設備の老朽化による代替え等経営的

当事業所に通所している利用者さんも不安定な方は多いです。勿論、皆さん働く事や、就労を目標に利用しています。が、病状によっては作業に上手く向き合えない時もあります。そんな時、やはりじっくり話を聞くことがとても大切なのだなと思います。工賃向上に一般就労・・利用登録者も増えて、現場は多忙を極めます。しかし、まどかの職員には一人一人の利用者さんに関心を持つという事を意識して貰いたいと思っています。重要なのは、自分は関心を持たれている。と利用者さんに伝わる様に、という事です。今年はこの点に焦点をあて、安心・安定、更には成長や回復の一助となる様、より良い支援を目指して参ります。昨年職員をはじめ、各関係機関の皆様を支えられてきた1年でした。本当に感謝しています。それでは皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りして年頭の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

一致で承認されました。残念な事に昨年は特定秘密保護法案の強行採決の陰に隠れて、一般には大きく取り上げられる事はありませんでした。何にしろ、この新聞が皆さんの手元に届く頃には既に批准されているかもしれません。今年もオリンピックイヤーですね。昨年の大きな話題の一つに、2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催決定がありました。オリンピック・パラリンピック招致と、障害者権利条約批准の承認が同じ年に決まったのは必然なのかもしれません。パラリンピックの開催によって日本の障害者施策への国際的な関心は高まることでしょう。障害者権利条約を以つて、ノーマライゼーションの実現に向けて日本の福祉がどの様に成熟していくのか、その力量が問われると思います。さて、まどかに於いては、事業所体系が変わつてから3年が経ちます。施設運営の点からは精神障害者支援事業にとつて今の制度はやはり馴染まない、というのが正直な感想です。

な課題を抱えていることは昨年度と変わっていません。こういう状況をふまえれば就労支援事業、福祉事業活動とも厳しい運営が予想されますが、今年の干支である馬は「物事がうまくいく」「幸運が駆け込んでくる」などといわれる縁起のいい動物だそうです。この際干支のいい部分にあやかり、健康に留意しながら職員、利用者とも一致団結したチームワークで乗り切りたいと考えます。本年もどうぞよろしくお願ひします。



就労移行支援 セルブあかつき 施設長 熊谷 昌博

明けましておめでとうございませす。昨年6月からセルブあかつきの担当となりました。ご存じのとおり就労移行支援施設は、就労を目指す利用者の方が就労に向けての訓練を行う施設です。現在実施して



就労継続支援B型 瑞穂町福祉作業所さくら 施設長 五十嵐 崇

新年あけましておめでとうございませす。今年でさくらは、4回目の新年を迎えることになりました。これも、皆様のご協力、ご支援の賜物と心より感謝申し上げます。今年もさくらの利用者、保護者の皆様に喜んでいただける作業所を目指し、職員全員で努力してまいりますので何卒よろしくお願ひ申し上げます。さて、今年の当所の目標は3点あります。1点目は、利用者工賃の増額です。そのためには新たな事業展開をはかつていく必要があります。一昨年から、新規の箱折り作業を開始し売上増をはかつてきました。今年

は、さらなる業者との信頼関係を築き事業拡大を目指してい

いる日々のプログラムを考えますと、施設よりも学校に近いといえるかもしれません。利用期間については、基本的には2年間（状況により、1年間の延長可）となっています。

就労移行支援施設に求められる「利用者の就職」と、施設運営上の「利用者の確保」は表裏一体であり、バランスを問われる命題だと認識しています。

「利用者の就職」については、昨年4月より一般企業の法定雇用率が2%（従業員50人に1人）となり、障害者求人が増えていることもあって、セルブあかつきでは、昨年4名の方が就職され、卒業して行かれました。就職後も、地域障害者就労支援センターと連携し、職場定着支援も行っています。今後も、就労プログラムの充実により利用者の就労準備の獲得を速め、マッチングとタイミングに留意し、利用者の就職に向けて充実した支援を実施して行きたいと考えています。

一方「利用者の確保」については、新規利用の方は少なく、定員20名のところ、現在10名の



就労移行支援・就労継続支援B型 セルブあかつき 施設長 遠藤 至子

新年あけましておめでとうございませす。昨年色々な事がありました。障害福祉情勢では、春の障害者差別解消法の成立に続き、12月4日には国際条約である障害者権利条約の批准が全会

きたいと思っています。2点目は、さくらを利用していただける人数の増員です。現在、30名定員のところ、利用者は26名です。今年も30名定員を目指して関係機関である町役場、障害者就労支援センター、社会福祉協議会、特別支援学校等と連携を取りながらすすめていきたいと思っています。その中で大事なことは、新しい利用者、保護者の方々がここから安心して通所出来る所だと思っただけでなく、職員も向上をはかっていくことが更に大事なことです。3点目は、職員の人材育成とリスクマネジメント、権利擁護の強化です。職員の人材育成では、内外の研修を通じて職員のスキルアップをはかり、利用者支援のさらなる充実をはかつていきたいと思っています。また、言われて動くのではなく自分で考えて動ける人材を目指していきます。そして、リスクマネジメントの強化では、更なる「気づき」の視点を常に持つことが大事なことだと思います。毎日

の利用に留まっています。施設運営の面からは非常に厳しい状況となっています。市町村、障害者就労支援センター、特別支援学校等に広報活動を行っています。なかなか利用者が増えない現状です。今後も、継続して広報活動を展開して行くと共に、新たな工夫も必要だと感じています。最後になりますが、本年も職員一同、利用者本位の支援を心掛けてまいります。よろしくお願ひ致します。

昨年、中学校の恩師にお会いする機会がありました。その時の話の中で、印象に残っている言葉があります。それは、「人のために汗をかいていきなさい」との言葉でした。今年、私自身もさくらのためなら何でもさせていたたく決意で汗をかいていきたいと思っています。

最後になりましたが、今年1年、皆様にとつて健康で、幸せな年になりますよう心から祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

# 新年の抱負

## 障害者就労支援センターより



武蔵村山市障害者  
就労支援センターより  
センター長 利根川 正

新年明けましておめでとう  
ございます。平成20年6月に開  
所したとらいまも6年目の新年  
を迎えることができました。

まずは昨年を振り返ります  
と、4月より障害者の法定雇用  
率が2%となり従業員数50人  
以上の企業までが義務化の対  
象となりました。大企業が集  
中している都心部ほどはあり  
ませんが、中小企業の多い多摩  
地域でも少なからず反応はあつ  
たように思います。その影響か  
らか、12月末での就職者数は  
24名で、前年よりも多い数字  
となりました。内訳としては事  
務3名、清掃10名、介護2名、

工場5名、クリーニング2名、  
調理補助2名でした。この内8  
名は職場開拓により就職につ  
なりました。

登録者数は、昨年4月に登  
録者の現状に即した見直しを  
行い123名となりましたが、  
それが以降20名以上の新規登録  
があり、現在は146名となり  
ました。毎年25名前後の新規  
登録が続いています。

一方、とらいま内部での動きも  
ありました。1月から新しい職  
員が入り、4月からは地域開拓  
促進コーディネーターとして1  
名の非常勤職員が加わりまし  
た。職員3名・非常勤1名の4  
名体制となり、増え続ける登  
録者への対応の幅も広がしまし  
た。

その他の取組みとして、10月  
にイオンモールむさし村山にて  
障害者インターンシップが実施  
され、今年もとらいまが事務局を  
務めました。13の企業と市内の  
福祉事業所から19の方が参

加し、皆が充実した実習を行  
なうことができました。また今  
回はイオンモール1Fにてイン  
ターンシップの写真展も開くこ  
とができ、一般の方々にもこの  
取組みを紹介することができ  
ました。企業と地域福祉を結ぶ  
取組みとして今後も継続して  
いきたいと考えています。

最後に今年の抱負ですが、や  
はり企業と登録者の双方にとつ  
てより良い就職となること、そ  
して、より長く、安心して働き  
続けられるような支援をして  
いくことです。今年もどうぞよ  
ろしくお願いいたします。



瑞穂町障害者  
就労支援センター  
センター長 岡部 雅之

新年、明けましておめでとう  
ございます。

平成23年12月1日に開所し  
た当センターもようやく3年目  
を迎えました。昨年の6月に人

事異動があり、新しい体制でス  
タートしました。女性職員が1  
名加わり、今までは男性職員の  
みの体制でしたので、きめ細か  
な支援が可能となりました。私  
自身も、6月よりセンター長と  
いう大任を任せられました。最初  
は戸惑いましたが、熊谷前セン  
ター長から受けた指導を活か  
し、ご登録者が安心して相談で  
きるセンターを目指して努力し  
てまいりますので、何卒よろし  
くお願い致します。

現在、瑞穂町在住の障害者  
をお持ちの方、69名が登録され  
ています。昨年の年始の時点での  
登録者数は39名でしたので、当  
センターの存在が、地域の皆様  
に浸透してきていると感じてい  
ます。

平成25年度の就職者数です  
が、9名の方が就職されていま  
す。一方、離職者数ですが、残  
念ながら3名の方が離職され  
ています。

日常業務以外の取り組みと  
しては、5月に余暇活動として  
ご登録者の中で、地域活動支援  
センターに通所されている方を  
対象に茶話会を企画しました。

普段は担当職員以外と交流す  
る事が少ないので、とてもいい  
機会になりました。11月には瑞  
穂町産業まつりに参加しまし  
た。今回初めての参加でしたの  
で、瑞穂町福祉作業所さくらと  
協賛して行いました。今回参加  
した事で、各関係機関との関係  
をさらに深める事ができまし  
た。

さて、昨年の4月から一般企  
業の障害者法定雇用率が引き  
上げになり、障害者求人が増  
えてきたこと、また、ハローワー  
クとの連携、職場開拓をする事  
で、少しずつですが就職者を出  
す事ができるようになりました。  
今後も地域密着を目指し、  
ご登録者と企業とのマッチング  
を考え、双方により良い支援を  
心掛けて行きたいと考えていま  
す。



## 支援現場における 虐待防止の取り組み

印刷部編集 茂木 伸之

昨年11月に「支援現場におけ  
る虐待防止の取り組み」の研修  
を受講してきました。

研修の中の講義では、どのよ  
うなことから虐待に発展する可  
能性があるのか、また虐待をし  
た場合の対処方法について学び、  
グループ討議では、グレーゾー  
ンについて学んできました。

虐待に発展する可能性として  
は、一番に多い虐待というのは、  
非意図的なものだそうです。ま  
た、小さな不適切な対応（行為）  
の積み重ねが大きな虐待になる  
とのことでした。例えば「から  
かいや遊びのつもり」「しつけ  
の一貫と思っている」など本人  
に虐待という意識がないという  
所を早期に気づき支援の見直し  
（セルフリセット）をするとの  
ことでした。

また、虐待をした場合の対処  
方法としては、「①怪我をうや  
むやにしないでセンターに報告  
②利用者の安全配慮（病院へ連  
れて行く）。③保護者の方に謝  
罪に行く。④改善策を建てる  
（個別支援計画を建て直す）⑤虐  
待者は出勤停止→再度事実確認  
↓移動・研修・退職などの処遇  
決定」という段階で対処すると  
のことでした。大事なことは虐  
待という事実を隠さないという  
ことでした。

グループワークでは、私の所  
属チームの構成員は、盲学校の  
支援員・身体（脳性麻痺）の方  
の生活支援員と身体と知的の方  
の生活支援員と私の4名でし  
た。グレーゾーンの事例回答の  
すり合わせの際、施設の利用者  
の障害特性や職種によって意見  
が分かれたり、他施設の生活支  
援員にとって虐待ととれること  
が、就労を目的とするうちの施  
設では虐待と考えにくかったり  
と一概に虐待といってもその環  
境によって捉え方が変わってく  
る事が分かりました。また各施  
設のグレーゾーンでは安全対策  
のためのベットに4点柵をつけ

ることが虐待になるということ  
や、食事・トイレの介助など、  
うちではやっていない支援面  
の虐待になり得る内容などが他  
施設から聞いて大変勉強になり  
ました。

自分も今までの利用者さんへ  
の対応を振り返り、不適切な対  
応がないように心がけ、質のよ  
い支援をしていけるよう心がけ  
たいと思います。

## 就業支援基礎研修

作業部三課 戸村 仁郎

11月5日から7日までの三日  
間「就業支援基礎研修」を受講  
しました。今回の研修では、障  
害者の方に対する就労支援とは  
どのようなことなのか、また就  
労支援の実際とは何かを学ぶた  
め参加をさせて頂きました。

講義の内容として一日目は、  
①障害者雇用の現状と雇用施策  
②就労支援機関の役割と連携  
③職業準備と就業支援でした。

障害者雇用促進法の概要、除外  
率制度、障害者雇用納付制度、  
助成金、障害者雇用の現状とい  
った様々な制度の説明がありま  
した。その全てが実際の就労支  
援では必要知識であると感しま  
した。また重要点として、平成  
25年4月1日より法定雇用率が  
引き上げられ、一般の民間企業  
では1・8%↓2・0%に、そ  
の他の分野でもそれぞれ0・2  
%ずつの引き上げが行われまし  
た。そうした背景から企業側の  
雇用拡大が進んでおり、より一  
層、就労支援者のスキルが求め  
られてくるとおっしゃっており  
ました。

二日目は、④企業における障  
害者雇用の実際 ⑤就業支援の  
プロセスと支援内容 ⑥障害特  
性と職業的課題でした。特例子  
会社の方が講師となり、実際の  
障害者雇用のケースを聞くこと  
ができました。企業面接の場面  
において支援者側が当事者の  
「障害特性・障害への配慮」ば  
かりを話すことがあります。し  
かし、企業側が求めている事と  
して「何ができるのか・得意な  
ことは何か・働きたいという意

欲」といった内容が知りたいと  
お話ししておりました。支援者は  
本人が働きやすいようにと配慮  
に目を向けがちですが、「求職者・労働者」であることを  
忘れてはならないと感じました。

三日目は、⑦接遇技法 ⑧  
労働関係法規 ⑨ケーススタデ  
イでした。接遇技法では、実際  
の企業面接における支援者側の  
マナーとして、名刺交換の演習  
や電話の受け方等を行いました  
た。実際にロールプレイをして  
みると細かな配慮や正しい言葉  
遣いなど、当たり前のマナーの  
難しさに痛感する場面がありま  
した。また、ケーススタディに  
おいては困難事例や検討課題を  
テーマとし、様々な機関の方と  
グループワークを行いました。  
就労支援センター・就労移行支  
援・就労継続支援など、それぞ  
れの機関には役割があり、様々  
なニーズに応じていくには連携  
や理解が必須であると再認識す  
ることができました。

今回の研修を支援員の第一歩  
として、これからも自身のスキ  
ルアップに励んでいきたいと思  
います。

### 瑞穂町福祉作業所 さくら近況報告

田中 隆子

秋から冬にかけ、さくらでは  
沢山の行事が行われました。  
まずは利用者の方が最も楽し  
みにしている「日帰り旅行」です。  
10月11日(金)にお台場・フジ  
テレビ見学に行ってきました。  
お昼はホテルグランパシフィッ  
クにてさくら初めてのブッフェ  
を堪能し、種類を多く食べる方  
また同じものを何度もおかわり  
する方など、各々が満足できる



食事となりました。その後は  
フジテレビへ。めざましテレ  
ビの収録場所を見学したり、  
いいともやスマスマの模型と  
写真撮影したりと、一人一人  
が興味津々な様子でもとも  
しんで見学を行っていました。  
惜しくも芸能人に会うことは  
出来ませんでした。普段テ  
レビで見ている場所に行けた  
事が皆さんとても嬉しかった  
ようです。また行き帰りの車  
中でカラオケ大会が行われた  
のは言うまでもありません。  
11月9・10日(土・日)には  
瑞穂町で行われた「産業まつ  
り」に出店しました。10月27  
日に予定されていた「福祉ふ  
れあいまつり」が台風の影響  
で中止になったこともあり、  
お客さんが例年より多く感じ  
られました。今回は就労支援  
センターとの共同出店となり、  
さくらは自主製品の石鹸やカ  
レンダー販売を、就労支援セ  
ンターは駄菓子とくじ引き販  
売を行いました。駄菓子とく  
じ引きでは子供が絶えること  
なく、ゲームは1日目に完売。  
駄菓子も2日目には全て完売



も楽しそうでした。さくら自主製品の石  
鹸も大掃除が近いこともあり、まとめて  
購入される方が多く見られました。  
12月7日(土)には「ふれあいカラ  
オケ大会」が行われ、さくらからは希望者  
9名の利用者の方が参加されました。10  
時から開始し、皆さん開始と共に元気よ  
く歌い・元気よく踊っていました。毎年  
生バンドの方が来られ、バンドと一緒に  
踊るのがお決まりになっているのですが、  
ほとんどの方が前に出られ汗だくになり  
ながらも10曲踊り続けていらつしやいま  
した。終始皆さんの笑顔を見ることが出来  
ました。またこちらにも元気をもらう事が出来ました。  
寒さが日ごとに増していますが、さく  
らの利用者の方々・また職員一同は今年  
も元気いっぱい頑張っていきたいと思  
います!!

するほどの大  
盛況でした。  
レジ係りの  
職員は大忙  
しでしたが、  
小学生や未  
就学児の小  
さい子供たち  
と触れ合う  
ことができ、  
利用者のみ  
なさんもとて

## 安全運転

安全運転管理者 高橋 毅

あかつきコロニーで現在保有し  
ている車両は、自己所有・レンタ  
ルを含め17台あり、送迎や支援活動  
営業、納品等での車両も毎日稼  
働しています。稼働が多いことは  
裏を返せば事故を起こすリスクも  
高まることとなります。また多く  
の職員が運転業務を行っており、  
当然運転技術の上手・下手も差が  
あるわけですが、安全運転の技術  
とはレーサーの様なテクニクで  
はなく、交通ルールや運転マナー  
に則った運転を行っていくものだ  
と思います。

昨年あかつきコロニーで起きた  
賠償が発生した車両による事故は  
3件、内訳は人身事故1件、対物  
事故2件で、幸い大きな事故にな  
りませんでした。いずれも勤務  
中に発生したものです。またそれ  
以外にもこすってきいたり、知らな  
いうちに傷がついていたりというこ  
とも多くあり、あかつきコロニー  
でも大きな事故を招くリスクはた  
くさんあるといえます。

昨年11月に安全運転管理者講習  
会に参加してきました。交通事故  
の悲惨さや飲酒運転等の重大な危  
険を伴う行為、死亡事故を起こし  
た人は一生償っていく話など、毎  
回聞く話ですが何度聞いても身が  
しまる思いになります。

今回はその中でエコ運転の推奨  
を強調されていました。エコとは  
環境にやさしいという意味でよく  
使われていますが、地球温暖  
化や大気汚染につながるCO<sub>2</sub>の  
排出を少なくしていくということ  
で、規制が年々厳しくなっていま  
す。CO<sub>2</sub>を出す自動車も今はエ  
コカーがブームですが、技術面の  
エコ運転が安全運転につながると  
いうことです。発進時は5秒かけ  
て時速20キロに上げることや、先  
の信号が赤になっていいることに気  
づいたらその時点でアクセルを踏  
むのをやめて惰性で進んでいくこ  
と、むやみに回転数を上げてス  
ピードを出さないなど、CO<sub>2</sub>の排  
出を抑える運転が安全運転につな

がっていくことであり、是非みなさ  
も実践してください。

また講習では自転車による人身事  
故の注意もされていました。近年自  
転車にのって歩いて歩行者とぶつかる  
事故が増えており、死亡事故になっ  
ているケースも多いということです。  
自転車は一見歩行者と同じ様に思わ  
れがちですが、法的には車両と位置  
付けられ自動車と同じ扱いとなり、  
交通違反を犯せば取り締まりの対象  
となります。手軽な乗り物ですから  
心の油断が生じやすい様に感じます  
し、事故についても軽く感じてしま  
うところもあると思います。しかし  
スピードを出していたり、当たりど  
ころが悪ければ当然大けがや死亡事  
故になり、相手が高齢者や小さな子  
供だとそのリスクは高くなります。

自転車の人身事故で更に怖いのが、  
自動車が入るような任意保険に入  
っていないケースがほとんどだとい  
うことです。仮に衝突して相手を  
死亡させてしまった場合、何億とい  
う慰謝料を自分が支払うことになる  
のです。  
あかつきコロニーでは職員や施設  
利用者で、自転車で通勤される方も  
多くいます。自転車同様、自転車も  
安全運転を心掛けていきましょう。

## 新人紹介

みなさんよろしくお祈りしま〜す!!



■7月に入所させて頂きました。利用者の皆様方に少しでもお役に立てればと思い、毎日、勉強させて頂いております。どうぞよろしくご指導の程、お願い申し上げます。



■10月16日より勤務させて頂いた事になりました。明るく、楽しく、そしてサポートがしっかり出来るよう頑張りますので、よろしくお願い致します。



■7月18日からリサイクルプラザでお世話になっております小山です。利用者の方々が安心してリサイクルプラザで仕事ができるようサポートしていきたいと考えております。よろしくお願い致します。



■9月19日にさくらに入りました。前は、瑞穂のつけ物の会社に20年勤めていました。これからよろしくお祈り致します。



■前職は番組制作、特技は24台カメラの生中継。海外ロケで地球を2周はしています。元気いっぱい頑張ります!



■10月1日からあかつきコロニーの1課に入りました中条浩です。月並みですけれど仕事を一生懸命頑張りますので宜しくお願いします。



■私は、セルブあかつきに入所した丸田仲世です。早く作業訓練をがんばって一般企業で働いて長く続けよう。健康訓練や日常生活や健康管理を良く維持するために病院へ行ったりもがんばりたいと思います。これがらもよろしくお祈りします。



■カラオケ好きの境です。よろしくお祈りします。

